

文化祭の日に学んだこと ～思春期の子どもとの向き合い方～

校長 野村 健一郎

厳しい残暑が続いた今年の夏ですが、ここ数日、朝晩には涼風が吹き始めています。このまま暑さも落ち着いて、心地よい季節に向かってほしいと思います。

先日の文化祭には、多くの保護者の方にはご観覧いただき、ありがとうございました。展示では、1年生が国をテーマにしたステンドグラスの制作をし、クラフトワーク部、情報科学部や各教科の課題なども日ごろの活動の成果を発表しました。また、舞台発表では、吹奏楽部の演奏に続いて、2年生も合唱を行い、美しいハーモニーを響かせてくれました。3年生は、どのクラスも元気で楽しいステージ発表を見せてくれました。ドラマ「今日から俺は」や「不適切にもほどがある」などをモチーフにした劇もあり、昭和の時代に中学生を過ごした私は、懐かしさを感じながら観ていました。自分の中学生のころに比べて、令和の中学生の発想の豊かさやパワーにつくづく感心させられました。劇、ダンス、バンド演奏などバラエティに富んだパフォーマンスに加え、PCなどを駆使して音響や背景を製作するなど、一人ひとりがもち味を生かし、自信に満ちて、楽しそうに表現している姿がとてもすてきでした。そんな子どもたちの姿に感心しつつも、自由な発想やエネルギーが暴走して、それこそ「不適切な」発表になったり、派手な衣装や化粧が行き過ぎて、歯止めが効かなくなったりするのではないかと不安や心配がよぎり、全体への指導も必要かもしれないなどと考えてしまいました。しかし、私の不安や心配は杞憂に過ぎず、文化祭は大きなトラブルもなく、無事に終わりました。

さて、文化祭の日の午後、五中では、「思春期の子どもとの向き合い方」というテーマでスクールカウンセラーの米田先生による講演が行われました。米田先生からは「大人は子どもに対して先回りの指示を与えがちであるが、子どもにとっては信じ、見守られていると実感できるような、あたたかい眼差しが効果的なスキンシップになる」というお話がありました。この「先回りの指示」こそ、まさに私が文化祭で行おうとした指導だったなと反省させられました。また、「思春期の子どもとの接し方の基本の3ステップ」として、次のようなアドバイスもしていただきました。

- ① 子どもの身になる努力→話したいことを聞く 願いを聞く
- ② 一緒に考える・行動する→願いをかなえる方法を考える 複数の選択肢から選ばせる
- ③ 自分を打ち出す→思いと考えを伝える

このステップを文化祭に置き換えてみると、文化祭をトラブルなく無事に終わってほしいというのは私も含めて、すべての教職員の思いではあります。ただし、その思いを子どもたちに伝え、理解してもらうためには、それまでの子どもたちとの向き合い方が大きく関わってきます。文化祭では、子どもたちの表現したいことを実現させるために、準備から本番に至るまで、担任や顧問は子どもたちの願いを聞き、ともに試行錯誤を重ねてきました。そうしたかかわりがあったからこそ、子どもたちは担任や顧問の思いを理解し、文化祭を無事に終えることにつながったのだと思います。今回の講演を通して、教員としての生徒とのかかわり方について多くのことを学びました。また、思春期の娘をもつ私にとってはわが子との接し方についても考えるヒントをいただきました。米田先生は、毎週金曜日にカウンセリングを行なっています。保護者のみなさま方でも、もし相談されたいこと等がございましたら、学校までご連絡ください。

10月は、19日(土)に体育祭、27日(日)に「オータムつながりフェスティバル」と二つの大きなイベントの開催が予定されています。保護者、地域のみなさまには、五中生の頑張る姿をぜひご覧いただきたいと思っています。よろしくお願いいたします。